

小学校 群馬県 吉岡町	農山漁村 北海道 大樹町	農山漁村 体験活動 の要点	体験の期間	4泊5日
			受入先の分類	受入地域協議会
			体験の分類	自然、職業観（畜）、交流

1. 学校名

吉岡町立駒寄小学校（住宅地区・共学・全校児童数 807 名）

吉岡町立明治小学校（住宅地区・共学・全校児童数 584 名）

2. 宿泊体験の位置付け：社会教育

※総務省「都市・農山漁村の地域連携による子ども農山漁村交流推進モデル事業」活用

3. 活動名：友好都市協定を結ぶ大樹町での農村交流

4. 学年・人数・期日・宿泊先

(1) 学年・人数：第5学年・30名（募集参加型(吉岡町教育委員会による募集・抽選)）

(2) 期日：平成28年8月19日（金）～8月23日（月）4泊5日

(3) 宿泊先：町営の宿泊施設4泊

5. ねらい

(1) 地域社会への視野を大きく広げること

(2) 児童の学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、人間的なふれあい、規律意識を育むこと

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
6時	吉岡町発	起床	起床	起床	起床
7時		朝食	朝食	朝食	帰りの準備、朝食
8時	移動	活動準備 (酪農クイズ等)	活動準備	活動準備	大樹町発 帯広空港発
9時		移動(バス)	大樹町宇宙交流セン ターSORAの施設見学	大樹小学校の児童 との交流	移動(航空機)
10時	羽田空港発	牧場バイオガスプラント ・酪農レクチャー等の見 学、子牛哺乳・牛舎清 掃等	ペットボトルロケット の作製・打ち上げ	児童による感想発表 閉会式	羽田空港着
11時	移動(航空機)				
12時		昼食	昼食	昼食	移動
13時	帯広空港着				
14時	移動(バス) 大樹町着	大樹町の児童とのスポ ーツ交流(大樹町発祥 スポーツ「ミニバレー」)	スポーツ活動 ※漁業体験を雨天中止 (代替プログラム)	カヌー体験	吉岡町着
15時	開会式				
16時	アイスブレイク		道の駅の見学 (吉岡町の情報・物産 を紹介している施設)	入浴	
17時	海岸遊び	木質バイオマスボイラー の見学・入浴		自由時間	
18時	入浴・夕食	夕食	入浴	夕食	
19時	吉岡町と大樹町の比 較、ご当地クイズ、方 言・歴史等の説明	ナイトハイク	夕食		
20時	振り返り	ペットボトルロケット等の 説明	交流発表の練習 寄せ書き	4日間の振り返り	
21時 ～	就寝：町営宿泊施設 (北海道大樹町)	就寝：町営宿泊施設 (北海道大樹町)	就寝：町営宿泊施設 (北海道大樹町)	就寝：町営宿泊施設 (北海道大樹町)	

6. 実施した農山漁村体験

- (1) 自然：カヌー体験
- (2) 職業観：牧場の見学・体験、宇宙交流センターの見学、牛乳工場の見学
- (3) 交流：体験先の農業者、体験指導者、大樹町の児童



7. 活用した学校外の組織・施設による支援策

		学校外の施設・組織による支援策	支援先の名称
人的支援		小学校と受入先との調整者の配置(事前打合せ、企画策定等)	吉岡町教育委員会 生涯学習室
		参加希望者の申込みの受付窓口の設置	
		職員の同行(安全管理、児童の体調管理等)	
経費的支援		交通費、児童・引率者の宿泊代の支出(総務省事業の活用)	生涯学習室
		予算執行の手続き(総務省への申請)	
情報面の支援		大樹町の地域資源・受入体制等に関する情報提供	【農山漁村体験の受入先】 南十勝長期宿泊 体験交流協議会
受入先による農山漁村体験の支援	活動前	担当者の相談・要望等に対応できる担当者の配置	
		担当者による下見の協力(本活動内容の最終確認等)	
		大樹町の食事・宿泊・見学・体験・指導者・移動手段の手配(牧場、宇宙交流センター、牛乳工場、カヌー等)	
		大樹町の交流先との調整(大樹町の小学校、各関係者)	
	荒天時の代替プログラムの手配(屋内スポーツ)		
	大樹町での緊急時の対応の確認		
	アレルギー等を抱える各児童の配慮の手配(指導者、食事担当等)		
活動中	引率者の相談・要望等に対応できる担当者の配置		
	大樹町での活動場所の移動・案内		
	アレルギー等を抱える各児童の配慮(指導者、食事担当等)		
	大樹町での緊急時の対応		
活動後	大樹町での諸費用の一括精算(精算手続きの簡略化)		
	事後学習への人材派遣		

【受入先の支援を活用した学校側のメリット】

- ・大樹町の自然・産業・生命・住民にふれる機会を設けてくれた。
- ・アレルギー等を抱える各児童の配慮や雨天時の代替プログラムを手配してもらえた。
- ・送り側のねらいにかなう効果を得ることができた。
 - ：大樹町の自然・産業・生命等の理解・関心が高まった。
 - ：大樹町と比較することで吉岡町を見直す機会になった。

【農山漁村体験の受入先】

南十勝長期宿泊体験交流協議会（北海道大樹町） 窓口組織：大樹町教育委員会

住 所 北海道広尾郡大樹町双葉町6番地1大樹町生涯学習センター内

TEL 01558-6-2133 URL <http://step-tokachi.org/>

小学校 東京都 江戸川区	農山漁村 北海道 木古内町	農山漁村 体験活動 の要点	体験の期間	2泊3日
			受入先の分類	受入地域協議会
			体験の分類	自然、職業観（漁・畜）、交流

1. 学校名：江戸川区立下小岩第二小学校（住宅地区・共学・全校児童数 168 名）

2. 宿泊体験の位置付け：自然の中での集団宿泊活動

3. 活動名：江戸川区の交流都市・木古内町での交流と体験

【江戸川区と木古内町との交流都市】

江戸川区と木古内町が所属する北海道町村会（渡島町村会）による協定の締結と、木古内町の姉妹都市である山形県鶴岡市と江戸川区が友好都市であることが縁で、両自治体による交流を深めている。

※総務省「都市・農山漁村の地域連携による子ども農山漁村交流推進モデル事業」活用

4. 学年・人数・期日・宿泊先

(1) 学年・人数：第6学年・37名（募集参加型（江戸川区教育委員会による働き掛け））

(2) 期日：平成29年7月31日（月）～8月3日（木）3泊4日

(3) 宿泊先：寺院1泊、民泊（ホームステイ・分泊）1泊、ホテル1泊

5. ねらい

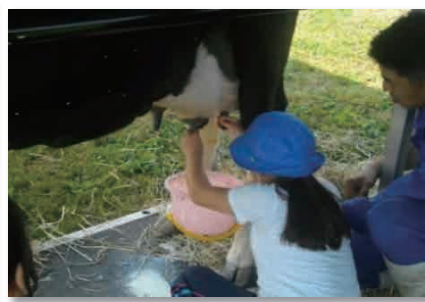
(1) 江戸川区の交流都市・木古内町の生活や文化等に触れることによる農山漁村の理解

(2) 木古内町での交流と体験を通じた地域を愛する心の醸成と豊かな心の育成

	1日目	2日目	3日目	4日目
6時		起床 朝食 片付け	起床 朝食 片付け	起床 朝食
7時				
8時		ホタテ養殖体験（ホタテの話、 ホタテの籠入れ・放流体験 等）、漁船乗船体験	各受入家庭から集合	ホテル出発 移動（バス）
9時			搾乳体験（牧場）	
10時		地引網体験 魚の話 記念写真	終了式（木古内町との別れ）	観光遊覧船での遊覧
11時			移動（バス）	金森倉庫付近の見学 昼食
12時	羽田空港集合・発	昼食（ホタテ飯、ホタテ焼き等）	昼食（弁当）	
13時	移動（飛行機）	海での活動 （飛び込み体験等）	函館市着	函館空港発
14時	函館空港着		五稜郭タワーの見学	移動（飛行機）
15時	移動（バス） 木古内町着	移動（各受入家庭）	移動（バス）	羽田空港着・解散
16時	開会式	木古内町での民泊体験		ホテル着 ・夕食 ・入浴
17時	寺院宿泊体験		ホテル着	
18時	・夕食の会場設営	・各家庭での夕食	・夕食	
18時	・バーベキュー	・交流		
19時	・片づけ	・入浴	・入浴	
19時	・入浴			
20時	・花火大会			
21時 ～	就寝：寺院 （北海道木古内町）	就寝：民家 （北海道木古内町）	就寝：ホテル （北海道函館市）	

6. 実施した農山漁村体験

- (1) 自然：海での活動（飛び込み体験等）
- (2) 職業観：漁業体験（ホタテの養殖・漁船乗船）、畜産体験（搾乳・家畜世話）
- (3) 交流：寺院、受入家庭、漁業者、畜産農家等



7. 活用した学校外の組織・施設による支援策

		学校外の施設・組織による支援策	支援先の名称
人的支援	小学校と受入先との調整者の配置(教員の負担軽減)		江戸川区教育委員会
	現地までの交通手段の手配		
経費的支援	総務省事業を活用した諸経費の負担(宿泊費(引率者を含む)、体験料、謝金(補助員、看護師)、駐車場代、教材費、保険料)		
	予算執行の手続き(総務省事業の活用)		
情報面の支援	小学校への企画案の提示		【農山漁村体験の受入先】 木古内まちづくり体験 観光推進協議会
	木古内町の地域資源・体験メニュー・受入体制等に関する情報提供		
受入先による農山漁村体験の支援	体験前	担当者の相談・要望等に対応できる担当者の配置	
		担当者による下見の協力(民泊先、訪問施設等)	
		学校のねらいと予算額に応じた活動内容の提案	
		食事・宿泊・地域内移動の手配	
		体験先・現地指導者の手配(漁業者、畜産農家、その他住民等)	
	体験中	荒天時の代替プログラムの用意	
		木古内町での緊急時の対応の確認	
		アレルギー等を抱える各児童の配慮の手配(寺院、受入家庭等)	
	体験後	引率者の相談・要望等に対応できる担当者の配置	
		木古内町での各活動場所の移動・案内	
木古内町での緊急時の対応			
木古内町での諸費用の一括精算(精算手続きの簡素化)			
保護者向けの活動発表会への人材派遣			

【受入先の支援を活用した学校側のメリット】

- ・送り側のねらいに応じた農山漁村体験活動を企画・手配してもらうことができた。
- ・配慮が必要な各児童に応じた手配や緊急時の対応をしてもらうことができた。
- ・本活動を通じて教育的な効果を得ることができた。
 - ：農山漁村の生活や文化等に触れることができた。
 - ：食糧生産を関わる生産地の努力や工夫等についての理解が深まった。
 - ：木古内町での交流・体験を通じて互いの地域の良さを分かち合うことができた。

【農山漁村体験の受入先】

木古内まちづくり体験観光推進協議会（北海道木古内町） 窓口組織：木古内町観光協会

住 所 北海道上磯郡木古内町字 527

TEL 01392-61-7357 URL <http://kikonai-kankou.net/taikenkankou000.html>